



ま ちがと インタビュー

震災と原発事故を振り返り新たな決意や想いは 大震災と原発事故から5年が経過

東日本大震災から5年が過ぎました。5年という時の流れを、町民の皆さんはそれぞれのよきな気持ちでむかえたのでしょうか。今回、あの震災を振り返り、新たな決意や想いを伺いました。



ゆきもり まさお
幸森 正男さん
(下北迫)

震災からもつ5年で、この間、大きな出来事といえば、やはり家内を亡くしたことです。

寂しくなりました。広野の家も、近所がバラバラになったので、今は気心の知った人たちで気兼ねなく過ごせるのがなによりで

すかね。

この中央台の仮設の方々もいわき市の病院に通っていたり、子どもたちの学校のことがあるため、来年にこの仮設を集約して皆でいれるなら一番有り難いですね。



はせがわ きいち
長谷川 喜一さん
(折木)

震災後は郵便の仕事で檜葉町からいわきまで回っていて、感じることは檜葉町民との明暗です。

檜葉町では町内でもいわきでも立派な家が次々と建っていて、仮設の人にも生活に余裕を感じますが、広野では見えない負担が増えて病院に行けない人もいます。これでは先の展望どころではありません。

賠償格差の解消は、町長任せではなく、議会にも真剣になつて取り組んで頂きたいと思えます。

編集後記

今年も新年度が始まりました。

役場も学校も各事業所も、そして私達も気持ちを新たにしておいて、昨年度よりは今年度に明るい希望を期待しながら次々と起きてくる諸問題に取り組んでいこうと思つていきます。

5年前の大震災と原発事故による放射能汚染により、私達の生活は一変しました。

この時季、身近にある山菜を食すのが何よりの楽しみでした。しかし、汚染により自由に採取し、食べる事が出来ず、一つ一つ食物検査場で放射能測定を行わなければいけません。こごみ、わらび、たらの芽、山うこ、筒などアクが強く、苦味やえごみがあり、それぞれに下処理が必要ですが、美味しい春の味です。

あれから5年、何年経てば以前のよう

に何の不安も感じずに普通に採って、普通に食べる事が出来るのか、当たり前の生活の大切さがどんなに貴重であったか、春の山菜を横目に見ながら強く感じています。

(塩 史子)



春を感じるタンポポ

発行・編集責任者

議長 黒田政徳
広報委員会

委員長 塩 史子
副委員長 阿部憲一
委員 北郷幹夫
委員 小磯利雄
委員 遠藤 浩

次の定例会は6月です

